

# 蓮田病院広報

第48号 11・12月号



熊本地震により  
被災された方々、ご家族  
の皆さまに心より  
お見舞い申し上げます。  
蓮田病院職員一同

## 蓮田病院理念

“思いやりのある やさしい医療”  
“最新の高度医療”

発行：蓮田病院広報部  
連絡先：048-766-8111 蓮田病院総務課  
発行日：平成28年11月1日

## 「意識下鎮静法」による優しい内視鏡検査と多岐にわたる治療法

副院長・外科部長・検診センター長 兼子 順



一般的に「内視鏡検査は辛い検査だ」と敬遠される方も少なくありません。いい診断・いい治療を行っても検査を受けていただかなくては意味がありません。

当院では開設以来28年にわたり「意識下鎮静法」による比較的楽に内視鏡検査を受けられる方法を採用し、検査を安全に施行し継続している実績があります。「意識下鎮静法」とは、鎮静剤や鎮痛剤を用いて楽に安全に内視鏡検査を受けていただく方法です。患者様からは実際とても楽に出来たということで、近隣のみならず他都県からのリピーター患者様も大勢いらっしゃいます。

当院の消化器内視鏡検査の特徴は、外科全員が検査に携わっている点です。内視鏡治療(粘膜切除・粘膜下層剥離術・ステント留置・総胆管結石採石など)から腹腔鏡手術や開腹手術に至るまで、患者様にとって治療の選択肢が広がり、かつ短期間での治療法連携が可能となることから、より侵襲の少ない治療や入院期間の短縮などのメリットがあります。

当院では、最新の内視鏡装置や器具を用いて診断・治療を行うとともに、医師を中心に職員が積極的に学会で発表や研修を行っており、患者様に安全安心で最新の医療をご提供できるように日々精進しております。

## 狭心症のお話



医師 循環器内科 山本 真

夏も終わり、秋から徐々に気温が低くなって冬を迎えると、心臓を診ている私、循環器内科医は緊張感が高まってきます。寒い季節になると私の経験上ですが、虚血性心疾患が多くなるような気がするからです。虚血性心疾患とは狭心症や心筋梗塞など心臓の血管が狭くなったり詰まったりする病気で心臓に血液が行きづらくなり、その結果、胸の圧迫感や痛み、動悸などが出現します。初期は動いたときに胸の違和感をおぼえることが多く、徐々にその回数が増していき、持続する痛みが出てからは手遅れになることが多いのです。当然、命に係わることもあり、突然死もあります。

私が外来で狭心症の検査をしましょうと言うと、よく患者様はこんなことを言います。「今まで健康診断で特にレントゲンも心電図も正常で、悪いと言われたことはありません。検査は必要ですか？」そのようなことを患者様が言うのはもともとだと思います。痛みが常にあるわけでもなく、健康診断でも大丈夫だと言われた。そこまで大ごとにする必要はないと感じるかもしれません。しかし検査は必要なのです。狭心症は厄介な病気で、レントゲン写真では心臓の血管が写らないのでわかりませんし、心電図も狭心症の発作が出現している時だけ異常所見が出るので、発作が出ていない時の心電図は正常なのです。狭心症は血液検査等でもわからないので、積極的に心臓の血管を「見に行く」検査をしなければいけないのです。健康診断ではわかりません。そのことが、日本3大死因に狭心症や心筋梗塞など心疾患が常にランクインしている理由の一つではないでしょうか？

皆さん、駅の階段を駆け登った時や坂道を歩いた時などに一時的に胸が圧迫さたり、胸が苦しくなったりすることはありませんか？そのようなことが頻回にある場合、もしかするとあなたの心臓が悲鳴をあげているのかもしれない。早めに循環器内科医と相談しましょう。あなたの大切な心臓のために！！

# 地域包括ケア病棟を開設

地域包括ケア病棟 師長 佐々木久美子

平成28年7月より地域包括ケア病棟を開設いたしました。在宅での療養に不安があり、もう少しの入院治療で社会復帰できる患者様、施設への転院がすぐに出来ない患者様のために、安心して退院していただけるよう支援していきます。

## ～ときどき入院、ほぼ在宅～

地域包括ケア病棟は、住み慣れた自宅（施設）で長く生活していただくことを応援する病棟です。

- ・急性期治療が終了し、症状が安定・軽快して「在宅復帰」へ向けた間の入院
- ・身体の状態変化に伴う「自宅環境が整うまで」の間の入院
- ・在宅復帰に向け「もう少しリハビリ」が必要なとき
- ・慣れない医療行為や、オムツ交換など「介護の練習」が必要なとき

病棟のスタッフが患者様・ご家族様を支えています。



地域包括ケア病棟は、医療やリハビリを受けることができる日数は決まっており、最長でも60日が原則とされています。60日での退院が不安になる方もいますが、当院にはソーシャルワーカーや専従のリハビリスタッフがおり、退院に向けたサポートをする体制が整えられています。自立できることが目標ではなく、その人に合った状態までの機能回復が目標となります。実際に、ご家族様が経管栄養やオムツ交換・痰の吸引が必要な寝たきりの患者様をご自宅で介護するために、病棟スタッフと一緒に練習し、退院されたケースもあります。



外部の訪問看護師さんやケアマネージャーさんとの連携も十分行っておりますので、何かお困りのときは、いつでも相談できるような体制となっております。

## 蓮田市やさしさいきいきフェスティバル

総務課 主任 斉藤 善広

平成28年10月23日（日）蓮田市総合市民体育館において、第21回やさしさいきいきフェスティバルに参加しました。

当院は、骨密度測定を実施して大変好評でした。周囲には他の健康測定もありますが、骨密度測定はとても人気で、順番待ちの列が途切れることがありませんでした。

骨粗しょう症とは、骨がスカスカになって弱くなり骨折しやすくなる病気です。この場合は、必ず骨密度測定を実施します。日頃の心掛けで予防することができます。この機会に自分の骨の量を調べ、日常生活を見直してみませんか。



### 蓮田病院公開講座のお知らせ

日時：平成28年12月2日（金） 13:30～14:40

講師：1. 中高年の肩痛

～腱板断裂や五十肩について～

医師 整形外科 篠崎 晋久

2. 私が認知症？ 家族が認知症？

～認知症って何？～

看護師 鈴木加代子

参加費：無料

お問い合わせ：病診連携室 TEL 048-766-3660

※諸事情により講師及びテーマが変更になる場合がございますのでご了承ください。



### 編集後記



そろそろ気温も下がり乾燥し始めました。もうすぐ冬がやってきます。皆様、インフルエンザの予防接種の予定はされていますでしょうか？当院でも、インフルエンザの予防接種の電話受付が始まっています。例年、12月の中旬でワクチンの在庫がつかせてしまいますので、お早めの予約をお勧めいたします。また、高齢者肺炎球菌感染症予防接種も受け付けています。こちらも該当される患者様は来年の3月までが期限となっていますので、早めのご予約をお願いいたします。冬に備えて、病気にかからないよう準備をしましょう。

広報委員 佐藤直哉